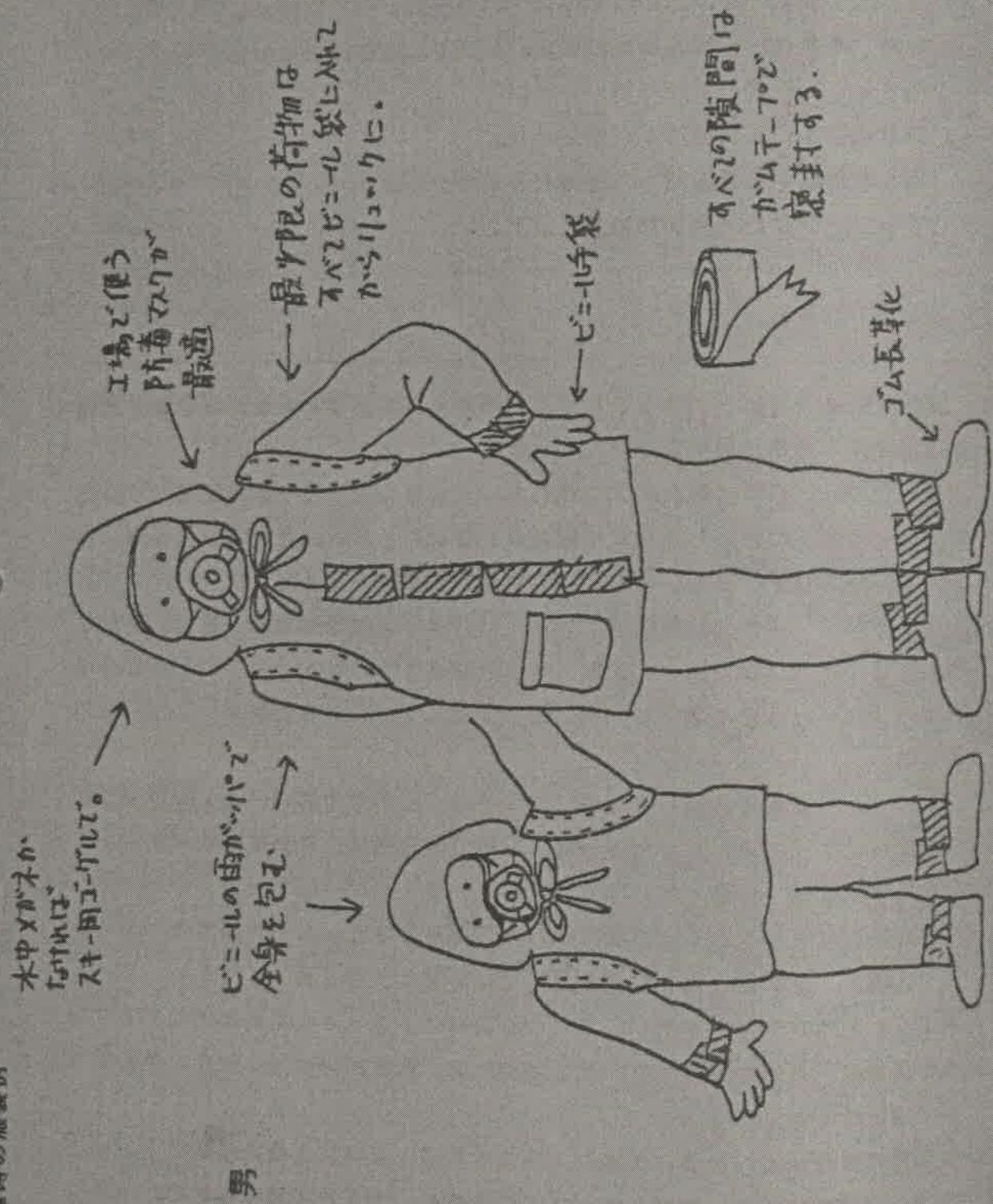


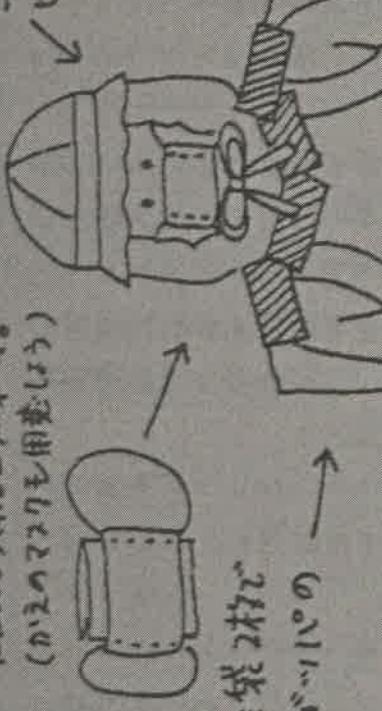
時に面具を作ります。格好などにかまつては寿命がちらまるだけです。
用意できましたか？ さあ、避難しましょう！

■避難時の服装例



アスカの下にハニカチと
トトモで人をとぞか罪め。
（かまくらをも用意しよう）

コットバーカー+
ビニールをもよご。

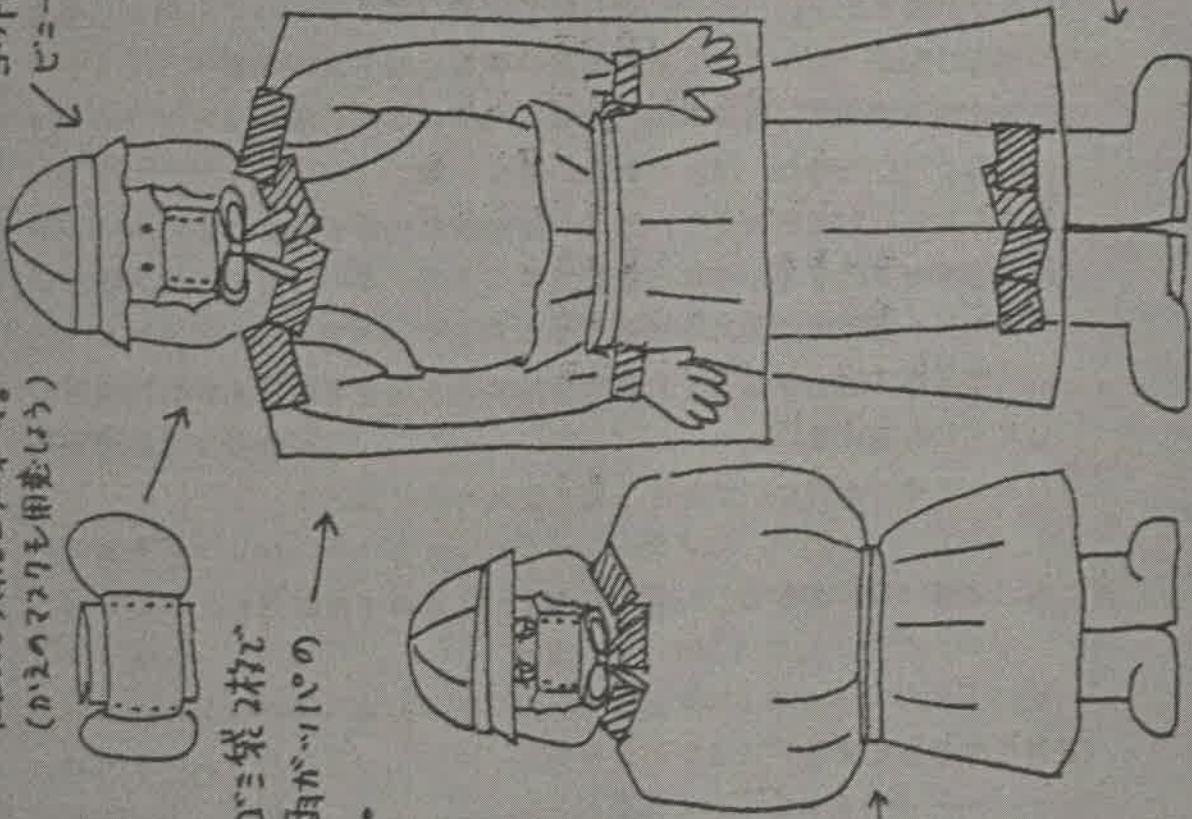


ビニールのゴミ袋 2袋
イヌコントローラーの
お供え。

女

小さな子供にセ
ビニール袋を
かぶせよう。

かまくら、
やどりきも
荷物の荷物で
しばう。



逃げる方向を決定する

1. 避難する場合の原則は、次の3つです。

- (1) 放射能の少ない方向に逃げる
- (2) 事故炉から遠ざかる
- (3) 風上に向かって逃げる

2. 天候状態による判断

実際には、道路、騒音などの地理的制約から、原則通りにはいきません。

ただし、事故炉から数キロ以内以外は、放射能は風に乗ってくるのです。
ですから天候ですべての放射能量は変わってきます。

(1) 自分が風上なら、一時的に近づいても良い場合

快晴の場合、曇っていても雲の高い場合、風が強い場合

(2) 事故炉周辺に放射能が漂い、近づいてはいけない場合

どんよりした晴れ、雨、雲が低い曇り、霧

(3) どんよりした天気の場合、産地に放射能がたまりやすい

(4) 事故炉のそばを通って来た雲は危険

こういう雲の下には入らないようにする

上空の風は地上とは違う方向に吹いている場合もありますから注意

(5) 風下には逃げない

(6) 風上に逃げられないときは、風と直角方向に逃げる

3. 有料道路は動きが取れなくなる可能性があるので危険です。

避難手段を決定する

初期に事故に気が付いた場合には、まだ避難も本格化していないので、自動車による避難も可能でしょう。ただし、車の場合はいったん道路が閉鎖された場合には、全く身動きができなくなってしまいます。ですから、少しでも早く公共交通機関に乗り換えるほうがいいと思います。

既に回り中の人達が避難に取り掛かり、町中が騒然としてきたような段階で

は、車、電車とも絶望的でしょう。そこら中が大混雑、大混乱におちいり、検問や交通規制ですぐに身動きが取れなくなるでしょう。この段階で、唯一役に立つと考えられるのは、自転車やバイクなどのパーソナルな移動手段と自分の足だけでしょう。

歩いて逃げる場合も走ったりしてはいけません。呼吸量が多くなって、たくさんの放射性物質を体中に取り込んでしまうし、結局遠くまで逃げられないからです。

1. 原発（事故炉）の至近距離にいる場合

とにかく空間線量が高いので、できる限り車で少しでも離れます。自らの脚で走ってはいけません。空気の消費量が増え内部被曝が増えてしまいます。

2. 道路が渋滞していたり、検問で車が通れない場合

オートバイか自転車しかありません。自転車での避難は予想以上に有効かもしれません。ただし、あまり急ぐと呼吸量が増え、被曝量が増えてしまいます。

3. 天気が悪い場合（雨、雪、霧のとき）は車がベターです。

4. 車で避難する場合は、窓、通風口は全て塞ぎます。また、車を放棄しなければいけない場合に備え、歩く場合の荷物をまとめておきましょう。車を捨てる場合は、ドアをロックせず、必ずキーをつけたままにして下さい。

5. 避難手段は一長一短

避難手段	（速 度）	（リスク、備考）
自動車	早い	道路の渋滞、遮断で動けなくなる
電 車	早い	駅に人が殺到、パニックの恐れあり
オートバイ	早い、自由	空気にさらされるので吸入量が増える
自転車	まあ早い、自由	検問を通過できる可能性が高い
徒歩	遅い	走った場合、吸入量が増える

避難時の持ち物チェックリスト（身につけるもの以外）

次の持ち物を必ず背中に背負って避難してください。リュックサックのようないわゆる荷物がないときは、ショルダーバックを使ってください。持ち物は、必ず防水して下さい。バッグが防水の場合でもさらにビニール袋に包むなどして水がしみこまないようにして下さい。濡れた物はすべて廃棄することになります。

1. 生き延びるために

■逃げ方を決める道具

- ラジオ
- 天気図（一番新しい新聞から切りとる）
- 地図
- 磁石
- 放射線測定器

■放射能を防ぐために

- ヨウ素剤
- マスクの替え
- 傘
- 交換用の雨具
- 着替え一式をビニール袋に入れたもの
- ガムテープ

■被曝を最小限にするために

- 非常用食料（最低2-3日分）
- 持てるだけの水
- ハサミ・カミソリ

2. 生活のために

■行動の自由を確保するために

- マッチ
- 缶切
- ナイフ
- 簡単な食器

懐中電灯

日常必要なもの

筆記用具

預金通帳、印鑑などの貴重品

常用薬

タオル、洗面具

貴重品

電話、自動販売機を使うための小銭

お金（あるだけ）

保険証

免許証

3. あれば役に立つもの

大きなシート

大きなビニール袋

水

救急薬品

放射能測定器、ラジオ、懐中電灯の予備の電池

4. 二度と戻ってこれない場合に備えて（事故炉から50km以内）

自分にとって非常に大切なものの

記念品

アルバム、写真など

住所録

5. あなたの大切なものを書いておきましょう

雨が降ってきたときに

放射能は、雨と共に降ってきます。ですから、基本的には雨に濡れないことが第一です。ただし、事故炉の近くにいるときはそもそも言つていられませんから、とにかく遠くへ逃げます。雨水が染み込んでしまったものは全て廃棄してください。

■事故炉から20km以内にいる場合

雨にかまっている余裕はありません。とにかく避難します。風向きと反対側もしくは直角に逃げます。【20】の「避難時の服装」に従って、出来る限り雨に濡れないようにしてください。荷物は最小限にし、必ずビニール袋などで防水します。

雨ガッパ、および着替えを必ずもう一組持って行きます。最初の休憩時に必ず着替えをしてください。

■事故炉から20-50kmの場合

大事故（チェルノブイリクラス）の場合はとにかく少しでも離れなければなりません。「20キロ以内の場合」に従ってください。

小規模の事故の場合は雨に濡れる方が危険です。

【33】IVを読んで、家の中に入る放射性物質を少しでも防ぐようにしてください。ただし、事故が拡大する場合にそなえ、情報収集を続けてください。

■事故炉から50-150kmの場合

基本的には屋内に避難して、【33】IVを読んで、家の中に入る放射性物質を少しでも防ぐようにしてください。避難の途中の場合にも【29】「休憩、睡眠の前に」を読んで必要な処置を取ってください。

事故の規模によってはこの距離でも避難の必要があります。雨がやんたらすぐに避難できるように、準備をしておきましょう。

■事故炉から150km以上の場合

雨の中を避難する方が危険です。屋内で雨がやむのを待ちましょう。避難途中の場合は【29】「休憩、睡眠の前に」を読んで必要な処置を行いましょう。

遮断機・検問の前で

とりあえず、指示にしたがいましょう。事故が予想外に大規模で、パニックが発生しているような場合も考えられます。秩序維持のために必要以上に神経質になっているかも知れません。ここで逮捕されてしまったり、警たれでもしたらたまりません。ただし、隙を見て、歩いてでも、山を越えてでも、とりあえず30km離れましょう。

自動車を放棄せざるをえない場合は、次の項にしたがってください。

自動車で動きが取れなくなった場合

自動車を放棄する場合は、必ずキーを車につけたままにしてください。またあなたの後から避難してくるが利用できるものがあれば、状態がわかるようにしておいてください。燃料切れ、検問で車が通れないなど、いろいろな状況があると思いますが、車のことはあきらめてください。キーがかかっていると、道路を通れるようにするのに時間がかかり、多くの人が必要以上に被曝する結果になります。

また、放射能汚染が激しい地域から避難してきた場合は、車自身がかなり汚染されているはずです。2次被曝を少しでも防ぐために、放射能に汚染されていることと、どこから来た車かをわかりやすく表示してから車を離れましょう。

公民館などに収容されたら

万一、警察や自衛隊の誘導で公民館などに収容されてしまった場合は、そこが、事故炉から30キロ以上離れていてコンクリート製の建物である場合や、すぐに避難用の車両が、迎えに来る場合は大丈夫です。とりあえず、子供達が2次被曝にさらされないような処置をとりましょう。→【33】IV

それ以外の場合は、とにかく抜け出さなければなりません。裏口からでも、トイレの窓からでも逃げ出して、少しでも事故現場から離れなければなりません。相手が自衛隊の場合は、よっぽどの事態に違ひありませんから、秩序維持の名目でなにをするかわかりません。十分に注意してください。

とりあえず避難を終了したとき一休憩・睡眠の前に

休息、睡眠の前にまず、いまいる場所の安全性を確認します。事故炉から、かなり離ても（数百キロ離れても）「ホットスポット」と呼ばれる、そこだけ非常に高い放射能を帯びたポイントがあちこちに出来ます。万一、せっかく避難した場所が「ホットスポット」の中では大量に被曝してしまいます。「ホットスポット」は、大きいものでも長さ4キロ、幅1キロ位なので、ほんのちょっと移動するだけで、被曝量が大きく減らせます。

安全が確認されたら、【33】「住居の防護」に準じて外気ができるだけ入らないようにします。

避難の過程で、大量に被曝した可能性がある場合は、【29】「かなり被曝してしまったときに」に従って、除染処置をとります。水、食糧も、可能な限り早く確保しましょう。

かなり被曝してしまったときに

高線量地域から避難して、または避難が連れて「かなり被曝したのではないか」と思ったときは、次の処置を取ってください。

1. 身につけていたもの、持ち物全てを廃棄する。大切なものもあるでしょうが、命あってのものです。廃棄するものには放射能に汚染されていることを巻末のような「危険」表示をしたうえで、できるだけ安全に処置してください。
2. 全身を汚染されていない大量の水でよく洗う。できるだけよくこすったほうがいいのですが、皮膚の抵抗力を低下させない程度にしましょう。またキズがあると、そこから放射能が入り込んでしまうので、注意。
3. 既に、安全な地域まで避難している場合は、髪の毛を始め、すべての体毛を剃り落とす。毛には放射性の塵が付着しやすいのです。
4. さらに避難を続ける場合は【20】「避難時の服装」を見て、これ以上の被曝を防いでください。

警察と政府

警察や政府が防止しようとするのは放射能による汚染よりもパニックです。ですから、いかに円滑に避難を行うかよりも、放射能を閉じ込めることと、パニックの発生防止を人命救助よりも優先します。ということは、基本的に彼らの言うことは信用できないわけです。少なくとも、あなたが助かるために最良の方法を提供してくれることはありません。ですから、避難すべきか否かはあなた自身で判断してください。

自衛隊が出動している

よっぽどの大事故に遭いありません。救助をおさえるためには射殺も厭わないかもしれません。とにかく彼らに見つかること、捕まらないことです。

避難中に、事故炉から離れつつあるのに急に放射能が高くなった場合

- 口の中に金属の味がする
- 空気・空の色がおかしい
- 冬でもないのに木の葉が落ちている

これらはすべて、スリーマイル島原発の事故の際に観測された、放射能漏れの信号です。とにかくいまいる場所を離れなければなりません。

避難する場合は風向きと反対側、もしくは直角に逃げてください。

避難の最中に、急にそういう事態になった場合は、事故炉から、風がぐるぐると回り込んで来た場合と、「ホットスポット」と呼ばれる局所的に高濃度の汚染地域に入り込んでしまった場合を考えられます。逃げる方向をかえる必要があります。

「ホットスポット」は、風向きの方向に（ただし、そのホットスポットが出来たときの風向きです）大きいもので長さ4キロ、幅1キロくらいに非常に放射能濃度の強いポイントが発生する現象です。ですから、「ホットスポット」に入ってしまった場合には、すぐに少し引き返すか、風向きと直角に移動すれば、急激に放射線量が下がっていくはずです。